

デジタル・アーカイブを用いた文化交流の課題

三宅茜巳*1 後藤忠彦*2 谷口知司*3

＜概要＞ 岐阜県とハンガリーの友好関係をテーマにしたデジタル・アーカイブ「真ん中交流・ブダペスト」を作成し、岐阜県が主催する「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」にあわせて情報を発信し、イベントと組ませた形でのデジタル・アーカイブの流通について考察した。また、こうしたデジタル・アーカイブが人々の意識をどう変えるかについて調査をおこなった。その結果、デジタル・アーカイブ(映像)は、その視聴者のイメージを変化させるというデータが得られた。したがって、今後は、デジタル・アーカイブが教育用として利用されるときには、視聴者・学習者の意識やイメージをどう変えていくかということに関しての情報も、記録していく必要があると思われる。

＜キーワード＞ デジタル・アーカイブ、文化交流、情報活用週間、意識調査、意識・イメージの変化

1. はじめに

NPO法人地域資料情報化コンソーシアムは、情報化社会に対処すべく、地域資料の情報化を推進し、コンテンツの開発・活用・流通を促進することを目的として設立された。

今回私たちは、岐阜県が主催し、毎年夏に行われている「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」という文化交流を素材にデジタル・アーカイブを作成し、岐阜県が主催するこのイベントと組ませてデジタル化された情報を発信することによって、デジタル・アーカイブを活用・流通させることを試みた。

その後、作成したビデオをもとに、視聴者の意識調査を行い、デジタル・アーカイブが活用されることによって、それを利用した側の意識がどう変化するかサンプル調査をおこなった。

2. アーカイブのコンテンツ

今年で第7回目となる「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」はリスト音楽院という世界的に著名な音楽大学・大学院の教授を岐阜に招き、公開レッスンを行うというイベントである。全国から応募してきた受講者は、テープ審査を経て、実際にほぼ一週間

にわたり、教授のレッスンを受ける。そしてレッスン最終日に行われる選考試験に合格したものは、翌年の9月から1年間、リスト音楽院に留学が認められるのである。

こうした地域に根ざした文化交流をデジタル・アーカイブ化するために、私たちはリスト音楽院のあるハンガリーの首都ブダペストと、岐阜で開催された第7回「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」を取材した。

取材日程 平成13年5月5日～5月12日
および 平成13年7月24日～8月8日
場所 ハンガリーの首都ブダペストおよび岐阜

内容

① デジタル・アーカイブ
構成

中央と中欧

桜が取り持つ縁：桜木 記念碑

岐阜とハンガリー 姉妹県：ヴェスプレーム市街 イシュトヴァーンとその妻の像
ぎふ・リスト音楽院マスターコース

*1 MIYAKE Akemi : 岐阜女子大学 e-mail= amiyake@gijodai.ac.jp

*2 GOTO Tadahiko : 岐阜女子大学 e-mail= goto@gijodai.ac.jp

*3 TANIGUCHI Tomoji : 岐阜女子大学 e-mail= tomoji@gijodai.ac.jp

街並みと歴史的建造物

ブダ側
 景観 ゼロ地点 ケーブルカー
 夜景：鎖橋 王宮
 王宮の丘：マーチャーシュ教会
 漁夫の砦 イシュトヴァーンの騎馬像
 ペスト側
 聖イシュトヴァーン大聖堂 イシュトヴァーン像 ドーム
 オペラ座：内部 階段 王の階段
 地下鉄：オペラ駅への階段 駅名タイル
 ヴァイダフニャド城付近：礼拝堂 グンデル
 国会議事堂：ドナウ側 ラコーツィ・フェレンツ2世 コシュト・ラヨス 内部 トロリーバス ナジ・イムレ像
 中央市場：外部 内部
 リスト音楽院：建物 壁画 フランチェスカさん 留学生 先生方 レッスン
 リスト記念館：プレート ピアノ リスト像

リスト音楽院

1956ハンガリー革命記念館

労働者運動銅像公園

伝統的刺繍 シュディ・エリカさん 服飾品

映画監督コ

ーシャ・フコーシャ・フェレンツ監督
 エレンツ

② デジタル・ハイビジョン映像
 ヨーロッパと日本の「真ん中交流」 ブダペスト（およそ26分）

③ パネル 18枚

3. 情報活用週間」の開催

NPO法人地域資料情報化コンソーシアムでは、収集記録された地域資料の利用、流通の促進の為に、「情報活用週間」を開催した。

（日時 平成13年 7月24日（火）から7月31日（火）、場所 岐阜市明徳町10番地 杉山ビル一階 展示ホール）。

そして、この「情報活用週間」の活動内容のひとつとして、ブダペスト・ウィークを位置付けた。

ブダペスト・ウィークの開催

日時 平成13年 7月24日（火）から8月8日（木）

場所 岐阜市明徳町10番地 杉山ビル一階 展示ホール その他

①展示物 パネル（ブダペストの街並み、リスト音楽院など 合計18枚）

②映像（真ん中交流 ブダペスト）の放映

また、この映像の一部は、7月31日 NHK「夕方チャンス」という番組で放映された。

4. 意識調査

ブダペストで撮影し編集したビデオ（24分弱）に、「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」開催期間中に撮影し編集した映像（3分弱）を加えたものを、視聴者に見せ、前後の意識の変容の調査を行った。

調査日 2001年9月20日

対象 岐阜女子短期大学在学学生 56名

調査項目 ビデオ見る前後に行った意識調査では、以下の13の項目について、それぞれ5段階の評価をしてもらった。

- ① かたくなるしいーうちとけている
- ② つまらないーたのしい
- ③ 暗いー明るい
- ④ ぼんやりしているーはっきりしている
- ⑤ 嫌いー好き
- ⑥ 活発であるーおとなしい
- ⑦ したしみにくいーしたしみやすい
- ⑧ 小さいー大きい
- ⑨ わかりにくいーわかりやすい
- ⑩ おとっているー優れている
- ⑪ 古いー新しい
- ⑫ 心に残らないー心に残る
- ⑬ さわがしいー物静かである

意識調査の結果は以下のグラフの通りである。

わずか26分のビデオではあるが、見る前と見た後では、視聴者の意識に変化のあるこ

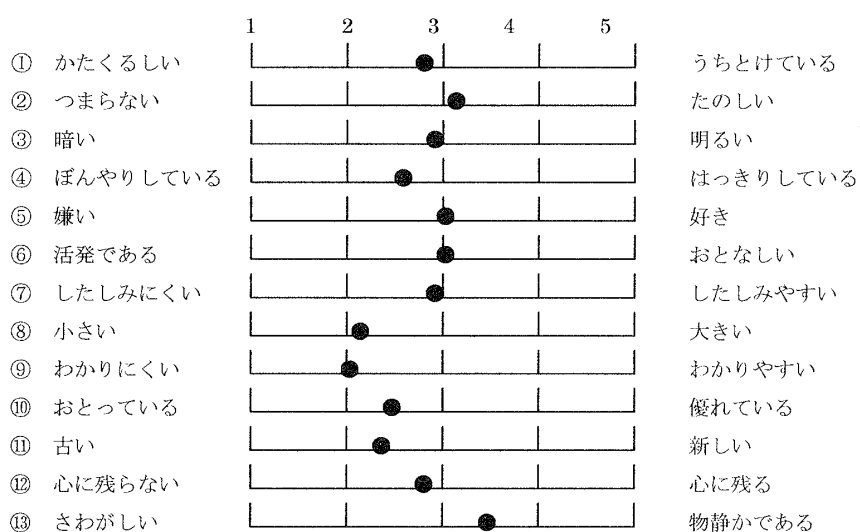
とがわかる。

5. 調査結果

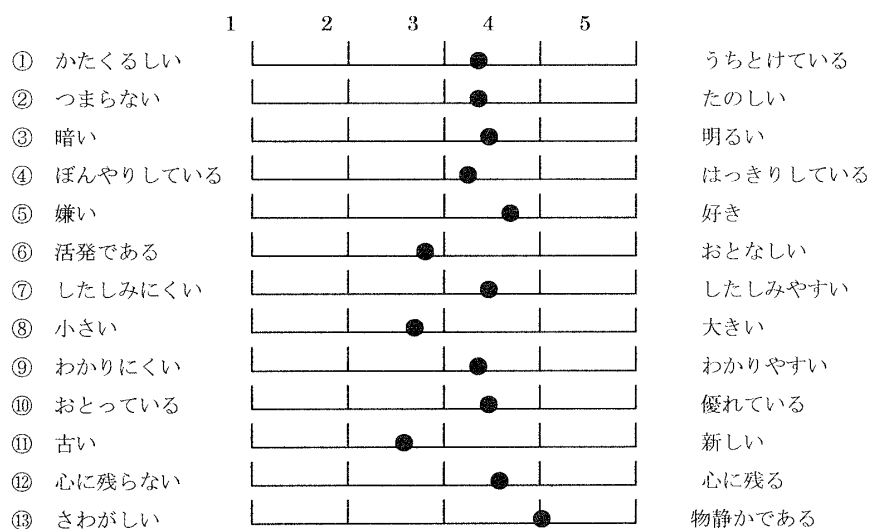
ビデオの視聴前に行った意識調査1では、

項目②、⑬を除くすべての設問に対して、数値が3以下となっている。それに対して、視聴後に行った意識調査2では、項目⑥、⑧、⑪を除く設問の数値が3を上回った。

グラフ1 意識調査1（視聴前）

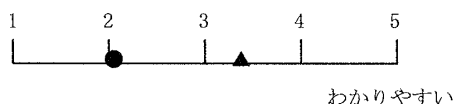


グラフ2 意識調査2（視聴後）



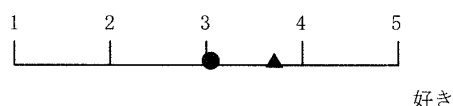
意識調査1と2で、被験者の意識がもっとも大きく変わったのは、⑨のわかりにくいーわかりやすいの設問の答えの部分で、2.0が3.2に変化し、わかりやすさがましている。

⑨ わかりにくい



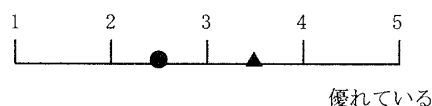
その他の肯定的な意識の変化と考えられるものの代表は、⑤の嫌いー好きの設問で、この場合は3から3.7へと変化し、好意が増している。

⑤ 嫌い



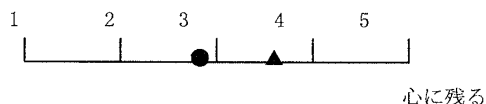
また、⑩のおとっているー優れているのケースは、2.5から3.4へ、

⑩ おとっている



⑫ の心に残らないー心に残るが2.8から3.6へ変化した。

⑫ 心に残らない



逆の否定的な変化は特にみられない。活発であるーおとなしい、⑧小さいー大きい、⑪古いー新しい、⑬さわがしいー物静かであるは、必ずしも肯定的否定的という価値判断の範疇には入らないので、更に細かい分析をしてゆきたい。

また、ここに具体的な数値は示さなかったが、ビデオを見た結果、ハンガリーに行ってみたいと思う者が56%あった。さらに、ビデオを見た結果、ハンガリーに対するイメー

ジが以前よりはっきりしたと答えた者は91%であった。

6. 結論と課題

今回私たちは、文化交流をテーマとしたデジタル・アーカイブを作成し、作成したアーカイブをイベントと組ませて発信、そして、アーカイブの一要素であるビデオを用いて意識調査を行った。

その結果、アーカイブによるイメージの変化の存在が確認されたと同時に、今後これらの更なる調査分析の必要性が感じられた。

とくに、今後デジタル・アーカイブは、文化活動、教育等に広く利用の推進が図られていくはずだが、これらのアーカイブが人に与える特性を十分に配慮すべきである。

このため、今後開発されたデジタル・アーカイブに、いかなる特性をあわせ記録すればよいかという問題が課題として指摘できる。

また、今後は、意識調査結果の分析を進めると同時に、視聴者・学習者にインパクトを与えるアーカイブの構成・流通の方法について更に調査・考察を進めてゆきたい。